

# 女子大学生における人間性を尊敬する対象の存在とアイデンティティ確立, キャリア意思決定との関連について

安 藤 聡 一 朗

## Difference Between Who Respects Someone and Who Respects noone in Japanese Women University Students: Its Relationship with Identity Formation and Vocational Decision

Soichiro ANDO

### 要 旨

人間性を尊敬する対象の存在は, アイデンティティ確立, キャリア意思決定と関連している可能性がある。本研究では, 女子大学生85名を対象に, 人間性を尊敬する対象の有無とそれに関する自由記述, 多次元自我同一性尺度, Vocational Identity Scale 日本語訳, キャリア意思決定尺度を実施した。人間性を尊敬する対象の有無について, MEIS, VIS, キャリア意思決定尺度得点の  $t$  検定を行い, 人間性を尊敬する対象がいる研究参加者は, そうでない参加者と比べて, アイデンティティや職業アイデンティティが確立し, キャリア意思決定もなされていることが示された。自由記述の内容分析からは, 尊敬感情は, アイデンティティ確立を媒介とするのみならず, 様々な形でキャリア意思決定に影響する可能性が示唆された。

キーワード: 尊敬, アイデンティティ, キャリア意思決定

### 問 題

尊敬という概念は, 近年感情としても捉えられ, いずれも「敬愛」が尊敬関係の感情として含まれていることが確認されている(武藤, 2016; 蔵永・樋口, 2014)。さらに, Li & Fischer (2007) は, 感情概念ではない他者への道徳的・社会的義務である義務尊敬(ought-respect)と区別して, 優れた他者への称賛や憧れである感情尊敬(affect-respect)があり, 優れた他者を役割モデルとして追随し, 結果的に自身をそうした人物になるこ

とを可能とする機能があると述べる。また, 斎藤(1990)は大学生を対象に, 相手の人に「敬意」や「憧れ」を抱いたときは「見習いたいと思う」「努力したいと思う」など自己発展的欲求を生じやすいことを示唆している。これらの知見から, 尊敬する感情を抱いた他者の存在がモデルとなり, その人物像に自らを近づけたいと願う欲求が生じることが伺えるが, その一端がアイデンティティの確立との形で表れると考えられる。

アイデンティティ理論を提唱した Erikson (1963) は, 重要な他者との関係などの社会的文

脈とのかかわりの中で人格が形成されていくと述べており、アイデンティティの確立には、個人が大切に思う他者が大きな意味を持つ。Hendry, Roberts, Gledinning, & Coleman (1992) や松田・若井・小嶋 (1994) は、イギリス、アメリカ、日本の青年について、母親、父親、同性の友人、教師など親以外の成人が発達を促すメンターとして重要な役割を果たしていることを確認し、Hogg, & Abrams (1988/1995) は、アイデンティティは所属する社会カテゴリーや親密な他者との関係から引き出されるので、これらが変化すれば、個人のアイデンティティの構造にも変化が見られると述べる。これらの知見は、個人にとって重要な他者がアイデンティティの確立に影響することを示している。中でも、アイデンティティ確立における他者の役割は Josselson (1994, 1996) により, holding, attachment, passionate experience, eye-to-eye validation, idealization and identification, mutuality and resonance, embeddedness, tending (宗田・岡本 (2006) では、「抱きかかえ」「愛着」「熱情的な体験」「目と目による確認」「理想化と同一化」「相互性」「埋め込み」「慈しみ・ケア」と訳されている) と、自己と他者との間にある 8 つの関係性の次元として整理されている。武藤 (2014) は、特定の人物を長期間尊敬し続ける様な「人物焦点尊敬・感情的態度」の下位構造には「敬愛」「心酔」「畏怖」があることを示しているが、自分よりも優れた特定人物を一貫して慕う感情である「敬愛」(武藤, 2014) は、Josselson (1994, 1996) の中の信頼できる人物を慕う感情である attachment と、憧れる対象と一体化を願う「心酔」(武藤, 2014) は Josselson (1994, 1996) の中の憧れる対象と同一化を求める identification (理想化と同一化) と意味的に重なり、アイデンティティ確立の対象となる他者に、人間性を尊敬する対象が含まれていることが伺える。これらの知見からは、人間性を尊敬する対象に近づこうとする過程でアイデンティティの確立が促進されることが示唆される。

一方、尊敬感情は自己是正・向上の行動につな

がる(無藤, 2016) など行動面の変化に現れるとの知見がある等、少ないながら尊敬と行動の関係について実証的研究が重ねられている。石川ら (2005) は大学生を対象に、「自分以外の他者を尊敬し、価値ある人間と考える肯定的態度」である他尊感情と自尊感情の双方がアサーティブな表現とポジティブに関連していることと、自尊感情の高低に関わらず、他尊感情が低い方が攻撃的な表現が高いことを明らかにしている。また、柴山・武藤・五十嵐 (2011) は、中学生を対象に他尊感情が高いほど友人関係の適応が良いことを示している。尊敬感情がどの領域で個人の行動を変化させるかの研究はまだ萌芽段階であるが、一つの可能性として、尊敬感情が職業アイデンティティの確立とキャリア意思決定に繋がっている可能性がある。アイデンティティの発達はいくつもの領域にて生じる (Marcia, 1966) が、その一つが職業アイデンティティであり、「個人の就職先、興味、パーソナリティ、技能についての明確で安定したイメージ」と定義される (Holland, Daiger & Power, 1980)。下山 (1986) が大学生の職業未決定のあり方を踏まえ、職業決定とアイデンティティ確立との関連を考慮することの重要性を指摘する等、青年期のキャリア意思決定には、アイデンティティ、特に職業アイデンティティの確立が影響すると思われる。

そこで、本研究では、女子大学生の人間性を尊敬する対象の存在とアイデンティティ確立、キャリア意思決定との関連を明らかにすることを目的とする。対象を女子大学生としたのは、現代女性は生き方が多様化し、主体的に人生の選択を行えるようになった一方で、女性の選択に対する社会的あるいは伝統的な制約も少なくない (杉村, 2001) との課題を抱え、女性のアイデンティティ確立とキャリア意思決定のプロセスを考えることは重要な課題であるためである。

## 方 法

### 調査対象者・時期

2018年の7月から10月に無記名式の質問紙調査を実施し、関西の私立大学に所属する大学1年生から4年生の女子大学生から回答を得た。質問紙の項目への回答に欠損値のあるものは除外し、85名（1年生13名、2年生42名、3年生23名、4年生5名、不明2名）のデータを分析に用いた。研究参加者には、事前に研究の主旨と研究目的以外にデータを使用しないこと、任意の参加であることを説明して、同意を得た。

### 質問紙の構成

以下に示す質問紙を測定尺度として用いた。

### 人間性を尊敬する対象の有無と、それに関する自由記述

人間性を尊敬する対象の有無を聞き、「いる」と答えた対象に対して「その人のどういうところを尊敬しているのか」、「その人を尊敬することが進路選択にどのように影響しているのか」を自由記述形式で回答を求めた。

### 多次元自我同一性尺度 (MEIS)

Eriksonの自我同一性理論に基づくアイデンティティを測定するため、谷(2001)の多次元自我同一性尺度(MEIS)を使用した。尺度は、自分自身の斉一性・連続性の感覚の形成を表す「自己斉一性・連続性」5項目、自分自身の目標や願望が明確に意識されている感覚を表す「対自的同一性」5項目、他者から見られている自分自身が、本来の自分自身と一致しているという感覚を表す「対他者的同一性」5項目、現実と社会との適応的な結びつきの感覚を表す「心理社会的同一性」5項目の20項目で構成され、「よく当てはまる(7点)」から「全く当てはまらない(1点)」の7件法で評定した。

### Vocational Identity Scale 日本語訳 (VIS)

「職業アイデンティティ」を測定する尺度として、Vocational Identity Scale (Holland. et. al, 1980) (以下VIS) の日本語訳(安藤, 2011)を使用した。尺度は、「職業アイデンティティ」を

測定する18項目で構成され、「はい(0点)」「いいえ(1点)」の2件法で評定した。VISは「職業アイデンティティ」を測定する項目得点の単純合計で尺度得点を算出し、オリジナルと同様にVIS得点が9点以上で「職業アイデンティティが確立している」と定義した。

### キャリア意思決定尺度

キャリア形成を測定するため、清水・花井(2007)のキャリア意思決定尺度を使用した。尺度は、職業を決定することへの不安を表す「不安」5項目、どのように職業を決定すればいいかわからない、決められない状態を表す「不決断」5項目、複数の進路の一つに絞り込むことへの葛藤を表す「葛藤」6項目、就職よりも自分の好きなことをしたい思いを表す「モラトリアム」6項目、職業決定について誰かに頼りたい思いを表す「相談希求」6項目、就職のことを考えたくない思いを表す「逃避」6項目、外的な要因により希望する職業に就けなくなることへの不安を表す「障害」5項目で構成され、「よくあてはまる(5点)」～「全くあてはまらない(1点)」の5件法で評定した。キャリア意思決定尺度は、下位尺度ごとに各項目の得点を単純合計して尺度得点を算出した。

## 結 果

### 本研究における各尺度の記述統計

本研究における各尺度の尺度得点から、信頼性係数、平均値、標準偏差を算出した。その結果、MEISの下位尺度のCronbachの $\alpha$ 係数、項目ごとの平均値、標準偏差は、「自己斉一性・連続性」で $\alpha=0.84$  ( $m=4.19$ ,  $SD=2.57$ ), 「対自的同一性」で $\alpha=0.85$  ( $m=3.79$ ,  $SD=2.55$ ), 「対他者的同一性」で $\alpha=0.79$  ( $m=3.87$ ,  $SD=1.77$ ), 「心理社会的同一性」で $\alpha=0.79$  ( $m=4.08$ ,  $SD=1.78$ )であった。VISは、Cronbachの $\alpha$ 係数は $\alpha=0.82$ で、尺度の合計得点の平均値と標準偏差はそれぞれ6.79と4.01であった。キャリア意思決定尺度の下位尺度のCronbachの $\alpha$ 係数、項目ごとの平均値、標準偏差は、「不安」で $\alpha=0.89$

( $m=3.20$ ,  $SD=0.80$ ), 「不決断」で  $\alpha=0.94$  ( $m=2.75$ ,  $SD=1.16$ ), 「葛藤」で  $\alpha=0.88$  ( $m=2.52$ ,  $SD=1.00$ ), 「モラトリアム」で  $\alpha=0.92$  ( $m=2.49$ ,  $SD=1.21$ ), 「相談希求」で  $\alpha=0.84$  ( $m=2.83$ ,  $SD=0.84$ ), 「逃避」で  $\alpha=0.88$  ( $m=1.93$ ,  $SD=0.80$ ), 「障害」で  $\alpha=0.75$  ( $m=2.87$ ,  $SD=0.89$ ) であった。

#### 人間性を尊敬する対象の有無について MEIS, VIS, キャリア意思決定尺度得点の $t$ 検定

人間性を尊敬する対象の有無とアイデンティティ確立、キャリア決定との関係を探るため、 $t$  検定を行った (Table1)。人間性を尊敬する対象がいる群は、アイデンティティとの関連では、MEIS の「対自的同一性」得点、「対他的同一性」得点、「心理社会的同一性」得点において有意に高い。職業アイデンティティとの関連では、VIS 得点において有意に高い。キャリア決定との関連では、人間性を尊敬する対象がいる群は、キャリア意思決定尺度の「逃避」得点で有意に低く、「不決断」得点と「モラトリアム」得点で低い傾向がある一方、「障害」得点は有意に高い。

#### 対象を尊敬することの進路決定への影響についての自由記述のデータの整理とカテゴリーの抽出

##### 自由記述データの整理の手順

対象者42名の自由記述データから、「対象を尊敬することの進路決定への影響」についての記述を文章単位で抜き出したところ、50の記述が抽出された。記述ごとに内容を分析し、類似した記述をグルーピングした。抜き出した記述の中で意味の近いと考えられるカードを収集してグループ化し、それぞれのグループにカテゴリー名をつけた。この作業を全てのグループに対して行い、各グループの下位カテゴリーを構成した。下位カテゴリーを記述したカードに対し、同様の作業を実施し、さらにもう1段階同様の作業を行い、最終的なカテゴリーを構成した。この時点での「対象を尊敬することの進路決定への影響」のカテゴリー数は7つであり、これらをテーマの特徴を表すカテゴリーとした。以上の作業を、筆者と臨床心理学を専攻する大学生2名の計3名で行った。

次に、内容分析により抽出されたカテゴリーごとの度数を、クロス集計で示した。1人の回答が

Table 1 人間性を尊敬する対象の有無と各変数の平均（標準偏差）と  $t$  検定結果

		人間性を尊敬する 対象がいる		人間性を尊敬する 対象がいない		t 値
尺度名	下位尺度名	n=49		n=36		
		mean	SD	mean	SD	
多次元 自我同一性	自己斉一性・連続性	21.57	(6.47)	20.08	(5.74)	1.10
	対自的同一性	20.49	(6.47)	16.86	(5.50)	2.72**
	対他的同一性	20.35	(5.02)	18.03	(4.51)	2.19*
	心理社会的同一性	22.16	(4.72)	17.99	(4.08)	4.31***
VIS		7.61	(3.95)	5.67	(3.87)	2.26*
キャリア意思 決定尺度	不安	15.80	(3.67)	16.28	(3.81)	-0.59
	不決断	12.88	(5.14)	14.92	(4.16)	-1.95 †
	葛藤	15.08	(5.14)	15.14	(4.21)	-0.06
	モラトリアム	13.96	(5.48)	16.28	(5.51)	-1.92 †
	相談希求	17.12	(4.36)	16.78	(3.67)	-0.38
	逃避	10.43	(4.24)	13.19	(3.78)	-3.11**
	障害	17.94	(3.99)	16.17	(3.20)	2.19*

注) †  $p<.10$ , \*  $p<.05$ , \*\*  $p<.01$ , \*\*\*  $p<.001$ .

複数のカテゴリーに該当する2つ以上の記述が混在している場合は、それらは別々のカテゴリーに分類するようにした。各グループにおける代表的な回答例と各項目の集計結果を Table 2 に示す。「尊敬する人と同じ進路」には、対象に憧れて同じ進路を選択するとの内容が含まれる。「進路選択の動機づけ」には、悩んでいたときに、前向きな気持ちに変わったきっかけになった、安心感を得た、相談相手となったとの内容の他、利他的な動機で就職活動を行うようになった内容が含まれる。「進路選択でやりたいことを後押し」は、具体的な目標を探すきっかけとなったり、挫折しそうになったときに応援してもらうなどの内容が含まれる。「進路選択の視野が広がる」には、異なる視点を取り入れて進路選択の幅が広がった内容の他、自分自身を向上させて尊敬する対象に見合った進路を見つけたいとの内容が含まれる。「進路選択に向き合うように」は、自らの進路について考えるようになったとの内容が含まれる。「人間性の向上」は対象の人間性に近づきたいとの内容や、就職後に周りに優しくするなど対象の影響で

就職に際して自らの人間性が向上したとの内容などが含まれる。「影響なし」は、尊敬する対象の存在が進路選択に影響していないとの内容が含まれる。

## 考 察

### 人間性を尊敬する対象の有無とアイデンティティ確立、キャリア形成との関連

人間性を尊敬する対象の存在とアイデンティティ確立との関連をみると、人間性を尊敬する対象の存在は「対自的同一性」、「対他的同一性」、「心理社会的同一性」と「職業アイデンティティ」に正の影響を与えていた。自由記述では「尊敬する人と同じ進路」「進路選択の動機づけ」「進路選択でやりたいことを後押し」などのカテゴリーで、尊敬する対象の存在が進路決定や動機づけを高めることに寄与していることが示されており、自分自身の目標や願望が明確に意識されている感覚を表す「対自的同一性」や現実と社会との適応的な結びつきの感覚を表す「心理社会的同一性」、個人

Table 2 対象を尊敬することの進路決定への影響についてのカテゴリーの出現数

テーマ	カテゴリー	下位カテゴリーと自由記述例	カテゴリーの出現数
対象を尊敬することの進路決定への影響	尊敬する人と同じ進路	同じ進路尊敬する人と同じ進路を考えている	3
	進路選択の動機づけ	がんばる原動力その人のおかげで苦手なことから逃げなくなった、心の支え折れそうになった時の支え、相談相手アドバイスをくれる、	8
	進路選択でやりたいことを後押し	やりたいことを後押し自分が本当にやりたいことに時間をもっと使いたいと思いつつなかなかやめる決心がつかなかった私に決心をつけるきっかけをくれた、やりたいことを探すきっかけ夢を見つけようと思ったきっかけを作った人	8
	進路選択の視野が広がる	視野が広がる「こういう考え方もあるんか～」と視野が広がった、尊敬する人に見合った進路自分もそのようになりたいため、それに見あった進路を探している	4
	進路選択に向き合うように	進路選択に向き合うように自分から進んで将来のプランを考えるようになった	4
	人間性の向上	尊敬する人に近づきたいその人のように考えることが出来るようになりたい、人間性の向上人間性が良くなれる、人として大切なことを教える勉強以外に人として大切なことを教えたいと思った利他的就業動機人のために何かできる仕事を選びたい	16
	影響なし	影響なし進路選択で影響していない	7



の就職先や興味などについての明確で安定したイメージである「職業アイデンティティ」の高さに影響したと考えられる。若原（2003）は、現代青年は母親を愛し同一視する傾向があり、伊藤（2001）は青年女子の自己同一性は母親との同一紙によって促進されると指摘する。本研究で見られた「尊敬する人と同じ進路」カテゴリーは、女子大生の職業アイデンティティを含むアイデンティティ形成において、母親のみならず尊敬する人全般に対しても同一視により促進される傾向がある可能性を示している。

また、自由記述の「人間性の向上」カテゴリーからは、対象の人間性に近づきたいとの思いや、就職後に周りに優しくするなど対象の影響で就職に際して自らの人間性が向上したとの思いなどの思いが示されており、本来の自分自身の姿を向上させようとの思いが、「対他者同一性」の高さに影響したと思われる。一方で、人間性を尊敬する対象の存在は、自分自身の斉一性・連続性の感覚の形成を表す「自己斉一性・連続性」には影響しなかった。本来の自分と違う存在だからこそ、憧れ、尊敬するため、自分自身の連続性の感覚とはあまり関係していないと推測される。Josselson（1996）は、特に女性のアイデンティティの発達には、他者との関係によって支えられたり促されたりすることを指摘している。本研究からも、尊敬する対象の存在が女性のアイデンティティ確立とつながりがあることが示された。

次に、人間性を尊敬する対象の存在とキャリア形成との関連をみると、先述した「職業アイデンティティ」への正の影響の他、「逃避」に負の影響、「障害」に正の影響、有意傾向ではあるが「不決断」と「モラトリウム」に負の影響があった。尊敬する対象がいることで、就職に向き合おうとする思いが高まり、決断や自分の好きなことより就職を優先させようとの思いも高まる。青木・中島（2011）は小・中学生を対象に、憧れる人の存在が向上心や目標指向性を高めることを見出している。本研究での尊敬する対象がいる女子大学生にも同様の傾向が確認されたと言える。

逆に、尊敬する対象の存在は、外的な要因により希望する職業に就けなくなることへの不安を高めるとの結果も示された。安藤（2011）は、職業アイデンティティの高い「課題直面型」の学生は、進路不決断傾向が低く就職の目標が定まっているが、準備に向けての不安が高まることを見出している。本研究で尊敬する対象が存在する対象者も、職業アイデンティティの高さを媒介して希望の職業に就けなくなる不安が高まるのかもしれない。

### 人間性を尊敬する対象の存在がキャリア意思決定にどのように影響するか

本研究では、尊敬する対象の存在がアイデンティティ確立に影響し、アイデンティティの一領域である職業アイデンティティを媒介してキャリア意思決定に影響するという関係を仮定した。内容分析からは、「人間性の向上」カテゴリーや尊敬する対象の存在が直接キャリア意思決定につながっている「尊敬する人と同じ進路」カテゴリーなど、アイデンティティ確立を通しての影響を示唆するカテゴリーも見られた。白井（2016）は、人の世話をするといった対人貢献的なものは職業目標の認識を促進することを示しているが、本研究でも「進路選択の動機づけ」の下位カテゴリーに「利他の就業動機」が見られるなど、尊敬する対象の人間性が自らのアイデンティティ確立に影響し、キャリア意思決定につながる場合もあることが考えられる。

その一方で、「進路選択でやりたいことを後押し」「進路選択に向き合うように」など、尊敬する対象による感情面での支えや「進路選択の視野が広がる」など情報提供が影響している場合も見られるなど、人間性を尊敬する対象の存在は、アイデンティティ確立を媒介した影響以外にもキャリア意思決定に関連していると推察される。

Li & Fischer（2007）は、尊敬が追従を動機づけ、ゆくゆくは尊敬した人物のように「可能自己」を発達させる過程を「自己ピグマリオン過程（self-pygmalion process）」と呼び、無藤（2017）は大学生の自己ピグマリオン過程を検討し、敬愛の感情的態度をベースに、尊敬する人物への様々

な感情状態の影響を受け進展するのかもしれないとの結果を示している。人間性を尊敬する対象への敬愛が可能自己を育てる中で、キャリア意思決定もなされるのかもしれない。

## まとめ

本研究の結果から、女子大学生に人間性を尊敬する対象がいることは、アイデンティティの確立や、キャリア意思決定の促進につながる可能性が示唆された。本研究の対象者は関西の一女子大学に限定されており、結果の一般化には慎重になる必要があるが、尊敬感情の心理的影響に関する知見を重ねることができたことには意義があると思われる。

また、尊敬感情は、アイデンティティ確立を媒介とするのみならず、様々な形でキャリア意思決定に影響する可能性も示唆された。感情面、情報提供など様々な可能性を視野に入れ、影響の全体像を把握することが今後の課題として挙げられる。

## 引用文献

- 青木多寿子・中島恭兵. (2011). 児童・生徒の向上心、目標志向性に及ぼす"あこがれ"の影響. 学習開発学研究, 4, 67-73.
- 安藤聡一郎. (2011). 日本の大学生の職業未決定類型化に関する一考察—アパシー心性及び余暇重視との関連から—. 青年心理学研究, 23, 175-184.
- Erikson, E. H. (1963). *Childhood and society* (2<sup>nd</sup> ed.). New York: Norton.
- Hendry, L. B., Roberts, W., Gledinning, A., & Coleman, J. C. (1992). Adolescents' perceptions of significant individuals in their lives. *Journal of Adolescence*, 15, 255-270.
- Holland, J. L., Daiger, D. C., & Power, P. G. (1980). *Vocational Identity Scale*. Palo Alto, CA: Consulting Psychologists Press.
- 石川満佐育・石隈利紀・濱口佳和. (2005). 他尊感情と自尊感情が自己表現に与える影響. 筑波大学心理学研究, 29, 89-97.
- 伊藤裕子. (2001). 青年期女子の性同一性の発達—自尊感情, 身体満足度との関連から—. 教育心理学研究, 49, 458-468.
- 蔵永 瞳・樋口匡賢. (2014). 尊敬の心理学的特徴に関する分析. 感情心理学研究, 21, 133-142.
- Josselson, R. (1994). Identity and relatedness in the life cycle. In H. A. Bosma, T. L. G. Graafsma, H. D. Grotevant, & D. J. de Levita (Eds.), *Identity and development: An interdisciplinary approach* (pp.81-102). Thousand Oaks, CA: Sage.
- Josselson, R. (1994). *Revising herself: The story of women's identity from college to midlife*. New York: Oxford University Press.
- Josselson, R. (1996). *The space between us: Exploring the dimensions of human relationship*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Li, J., & Fischer, K. W. (2007). Respect as a positive self-conscious emotion in European Americans and Chinese. In J. L. Tracy, R. W. Robins, & J. P. Tangny (Eds.), *The Self-conscious Emotions*. New York: Guilford Press, pp.224-242.
- 松田 惺・若井邦夫・小嶋秀夫. (1994). 発達における重要な他者（メンター）との関わり方の分析：(1) 日米大学生の比較研究. 愛知教育大学研究報告：教育科学, 43, 105-118.
- 武藤世良. (2014). 尊敬関連感情概念の構造—日本人大学生の場合—. 心理学研究, 85, 157-167.
- 武藤世良. (2016). 尊敬感情の行為傾向—大学生の感情エピソードに着目した検討—. 心理学研究, 87, 122-132.
- 武藤世良. (2017). 尊敬による「自己ピグマリオン過程」とはいかなるプロセスなのか：—大学生を対象とした短期縦断的検討—. 感情心理学研究, 25 (Supplement), os04-os04.
- 斎藤 勇. (1990). 対人感情の心理学 誠信書房
- 柴山香澄・武藤悠子・五十嵐哲也. (2011). 中学生の他尊感情と友人関係の諸側面との関連. 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 1, 83-88.
- 清水和秋・花井洋子. (2007). キャリア意思決定尺度の開発：その1：大学生を対象とした探索的因子分析からの尺度構成. 関西大学社会学部紀要, 38, 97-118.
- 下山晴彦. (1986). 大学生の職業未決定の研究. 教育心理学研究, 31, 157-162.
- 白井利明. (2016). 子ども・青年の職業目標の発達と進路指導の課題—回想展望法による高校生における職業一貫性の読み取りの効果—. 大阪教育大学紀要, 65, 61-74.

- 宗田直子・岡本祐子. (2006). 「個」と「関係性」からみたアイデンティティ研究の動向と展望－発達早期における「個」と「関係性」の起源に着目して－. 広島大学心理学研究, 6, 223-242.
- 谷 冬彦. (2001). 青年期における同一性の感覚の構造 - 多次元自我同一性尺度 (MEIS) の作成. 教育心理学研究, 49, 265-273.
- 若原まどか. (2003). 青年が認識する親への愛情や尊敬と，同一視および充実感との関連. 発達心理学研究, 14, 39-50.